

市民アンケート結果

目 次

＜調査概要①～③＞	P 2～4
＜調査結果まとめ＞	P 5
Q 1 【日常生活の充実感】	P 6～9
Q 2 【居住地域に対する愛着や誇り】	P 10～16
Q 3 【京都の持つ都市のイメージ（将来）】	P 17～19
Q 4 【今後の生活の仕方】	P 20～23
Q 5 【定住意向】	P 24～26
Q 6 【都市の魅力】	P 27～29

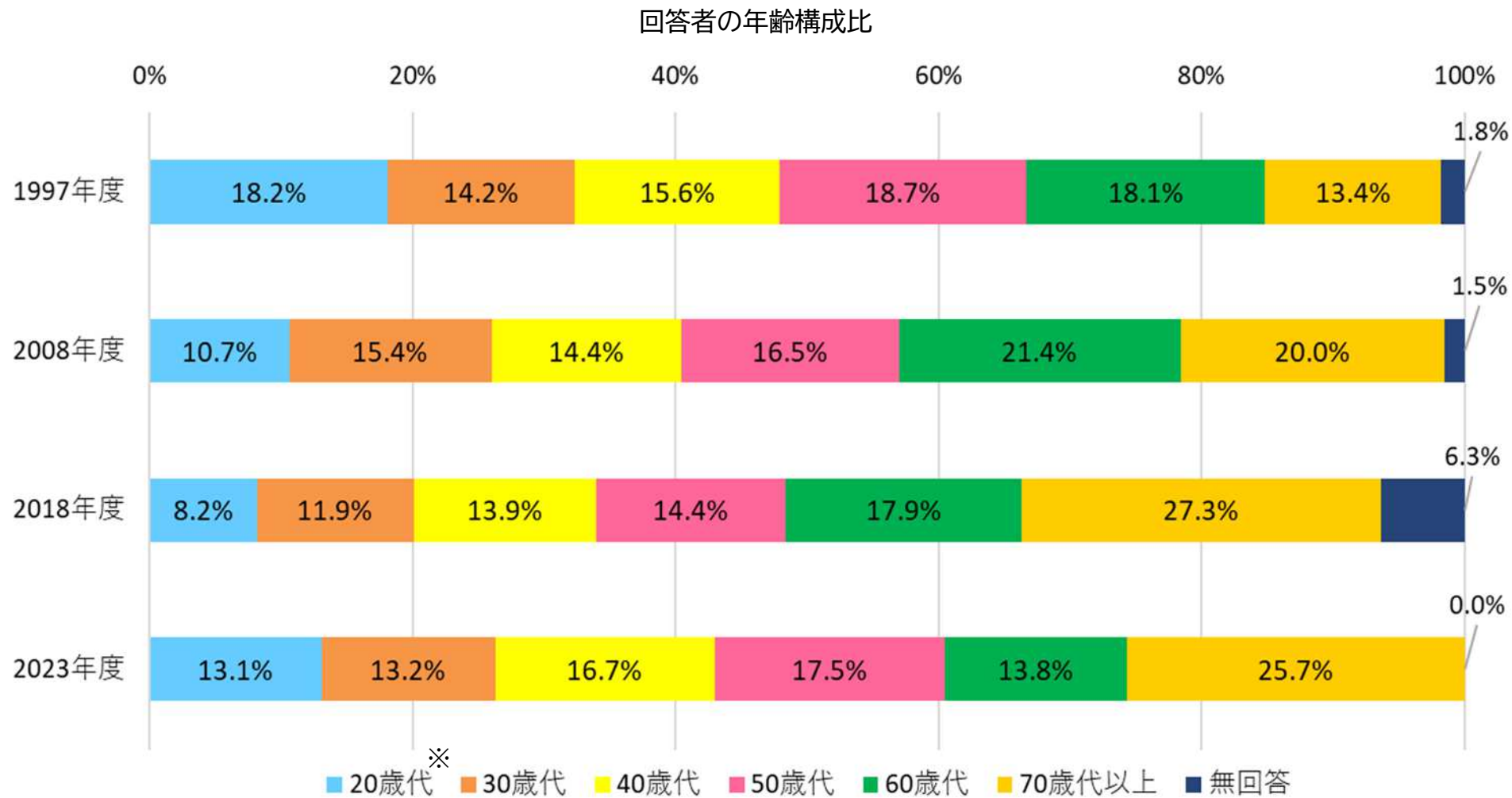
<調査概要①>

	1997年度	2008年度	2018年度	2023年度
調査対象	18歳以上の市民 (30,000人)	18歳以上の市民 (12,000人)	18歳以上の市民 (12,000人)	20歳以上の市民
抽出方法	住民基本台帳及び外国人登録者から無作為抽出	住民基本台帳及び外国人登録者から無作為抽出	住民基本台帳（外国人データ含む）から無作為抽出	住民基本台帳における行政区ごとの人口構成割合に合わせて回収
調査方法	郵送調査	郵送調査	郵送調査	インターネットモニター調査
有効回答数	9,552	4,828	4,290	970※
回収率	31.8%	40.2%	35.8%	—

※ 郵送調査と異なり、母集団（＝郵送数）がないため、回収率は算出できない。

※ 調査結果の割合は、四捨五入しているため、集計値の合計は必ずしも100%とならない場合がある。

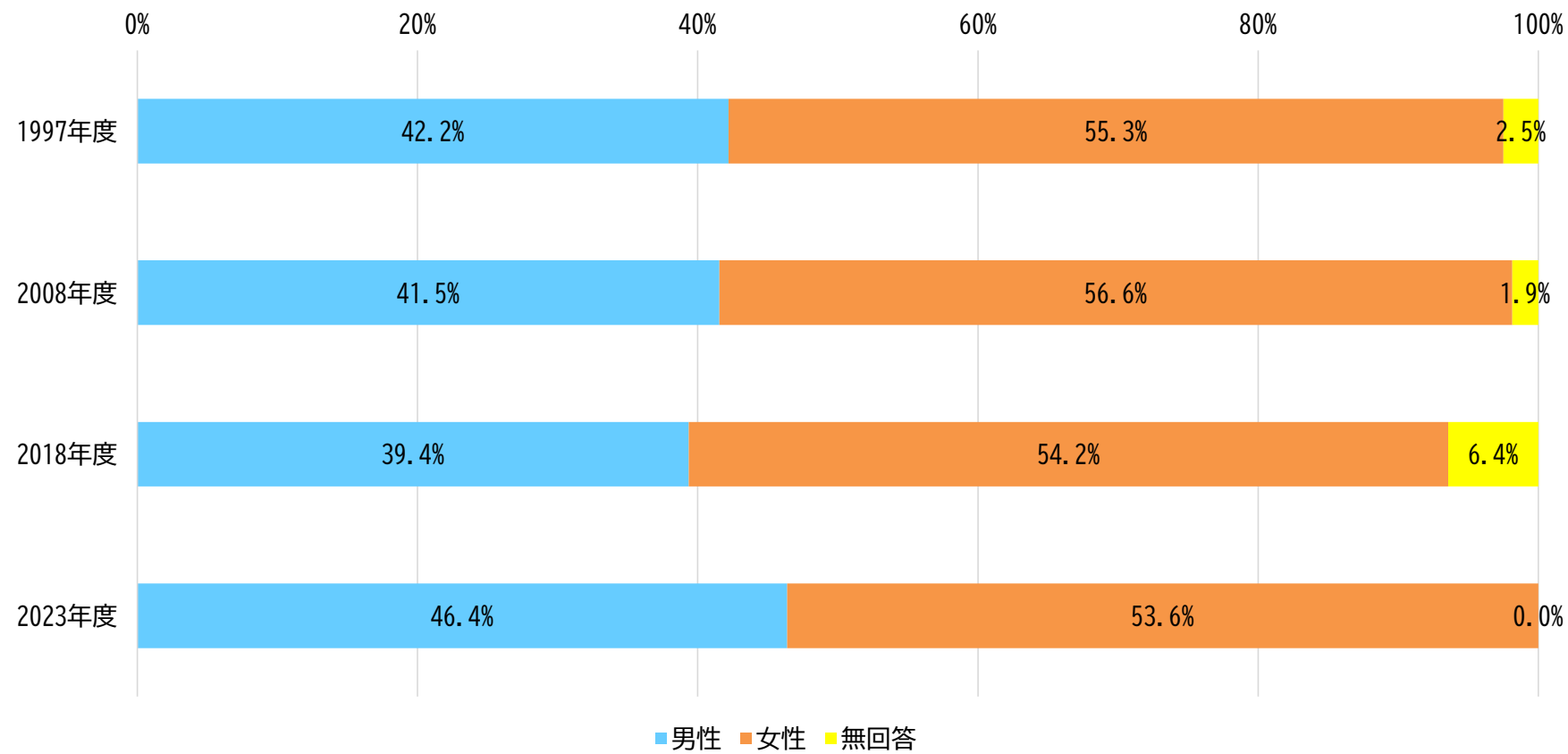
<調査概要②>



※ 1997年度、2008年度、2018年度調査では、「20歳代」に18歳及び19歳を含む。

<調査概要③>

回答者の性別構成比



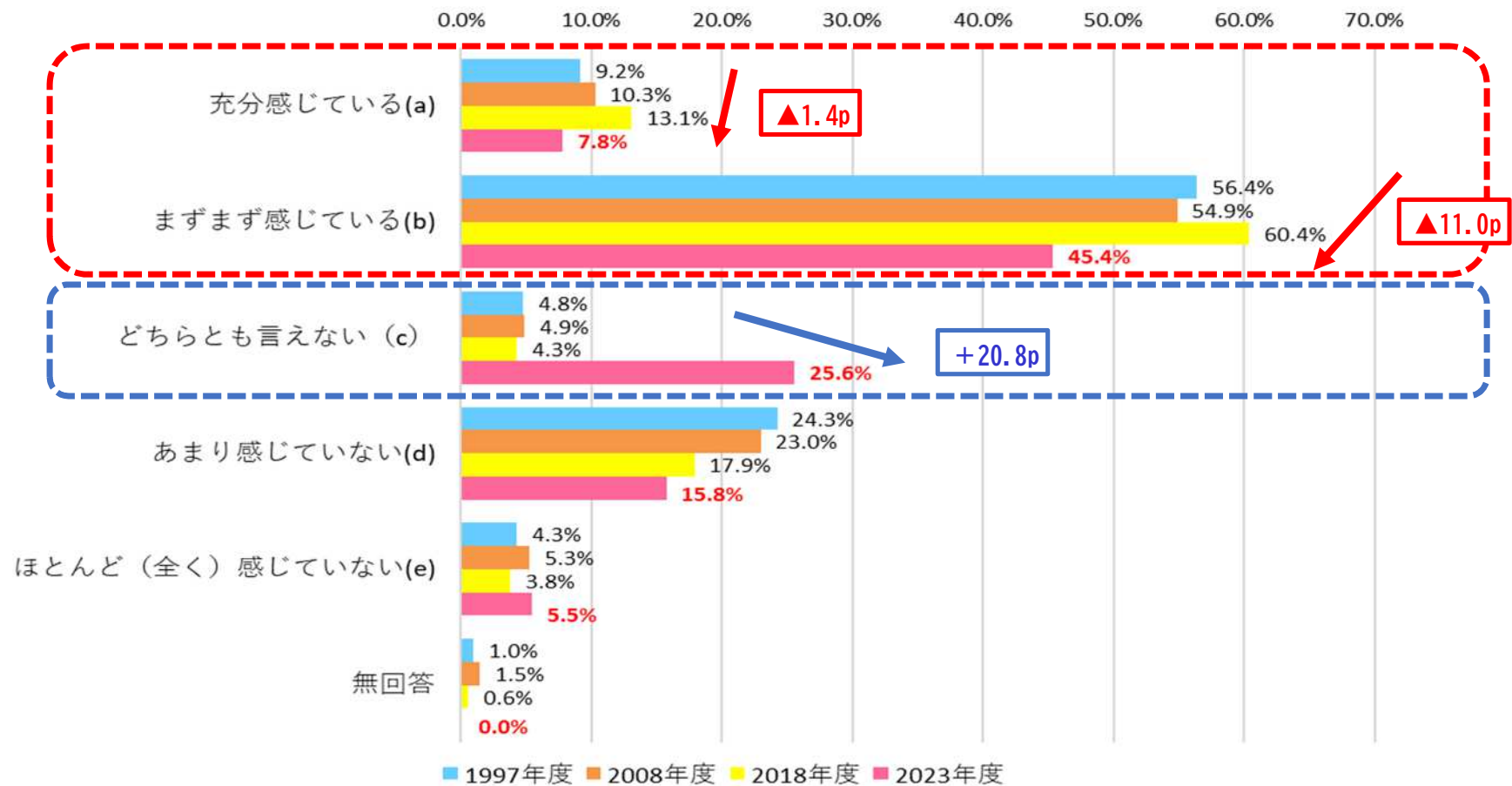
<調査結果まとめ> ※1997年度調査結果からの変化

- ・ 日常生活の充実感は低下 ※世論調査でも低下（P6～P9）
- ・ 居住地域に対する愛着や誇りは、「行政区」を除く項目で低下。全項目の中では「京都市」が最も高い割合（P10～P16）
- ・ 都市のイメージ（「将来の京都」に特にこうあってほしいと思うイメージ）は、「子育て・教育を大切にする都市」や「安心して暮らせる都市」などが増加。一方で「環境問題の解決に積極的に貢献する都市」や「日本人の心のふるさとの都市」「山紫水明の都市」などが低下（P17～P19）
- ・ 今後の生活の仕方は、「まだまだ物質的な面で生活を豊かにすることに重きをおきたい」が増加 ※世論調査でも増加（P20～P23）
- ・ 定住意向は増加し、移住意向は低下（P24～P26）
- ・ 都市の魅力は、「食べる、飲む」「買い物をする」「商売をする」が大幅に増加した一方で、「育てる」「住む」「散策する」は低下（P27～P29）

Q1【日常生活の充実感】

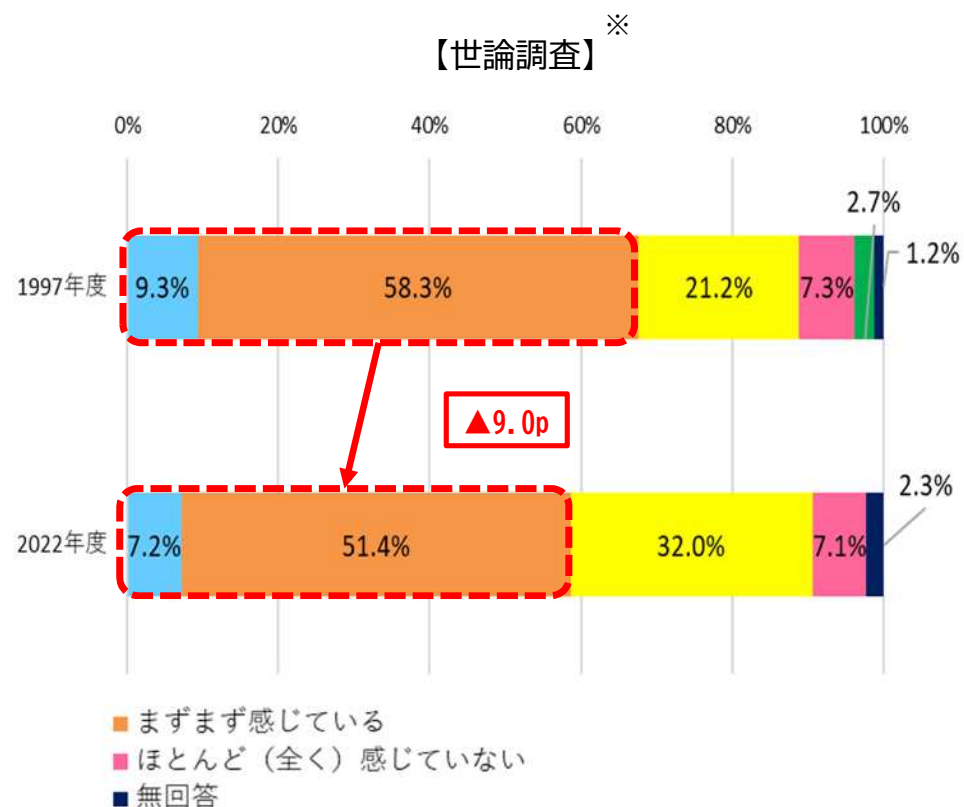
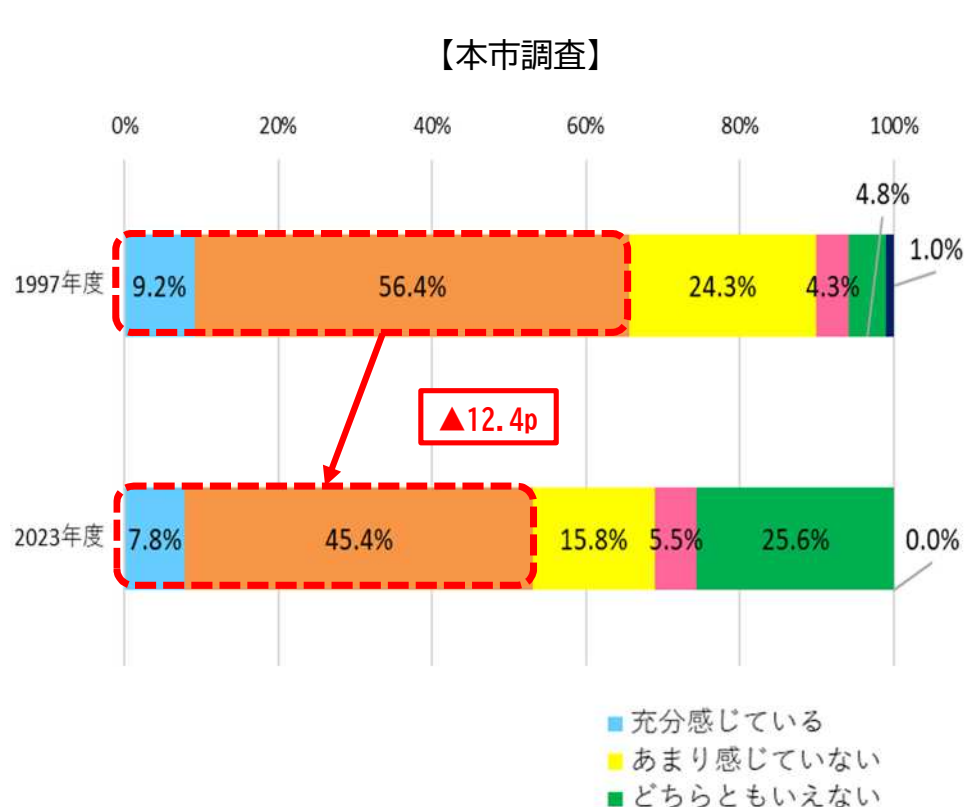
あなたの実感として当てはまるものを一つ選んでください。

- 1997年度と比べ、「充分感じている」、「まずまず感じている」と回答した割合が**減少**し、「どちらとも言えない」と回答した割合が大幅に**増加**



Q1 世論調査との比較（1997年度比）

- 本市調査、世論調査ともに、「充分感じている」、「まずまず感じている」と回答した割合が**低下**

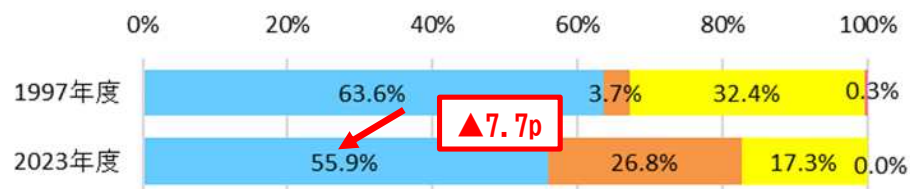


※ 国民生活に関する世論調査（1997年5月調査、2022年10月調査 内閣府）

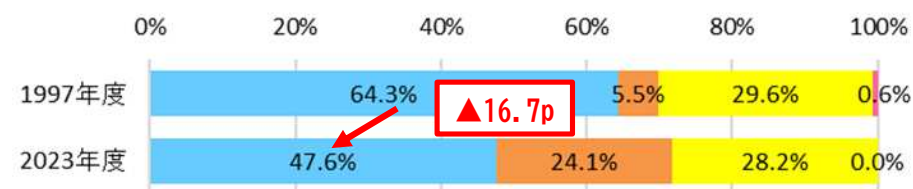
Q 1 年齢層別（1997年度比）

- 充実感を感じていると回答した割合は、すべての年齢層で**低下**

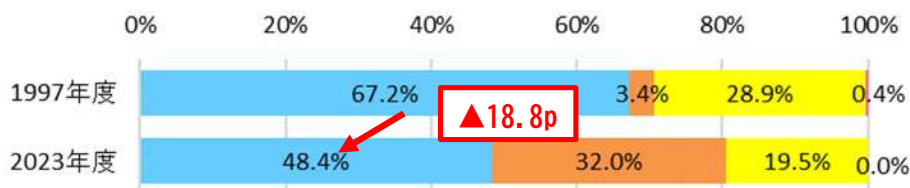
20歳代 ※ 1997年度調査は、18～29歳が対象



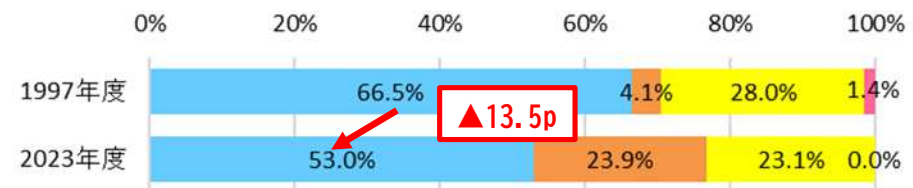
50歳代



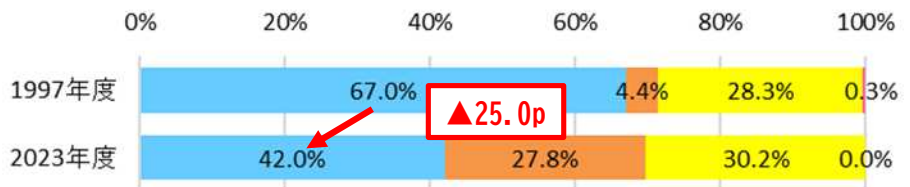
30歳代



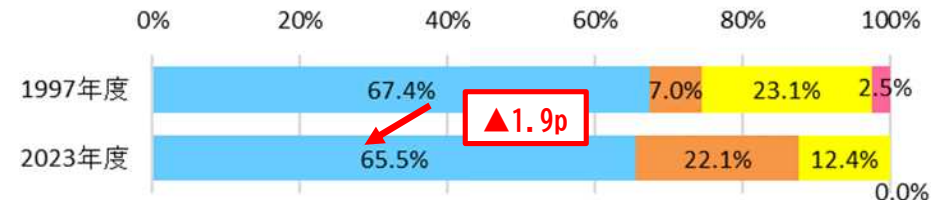
60歳代



40歳代



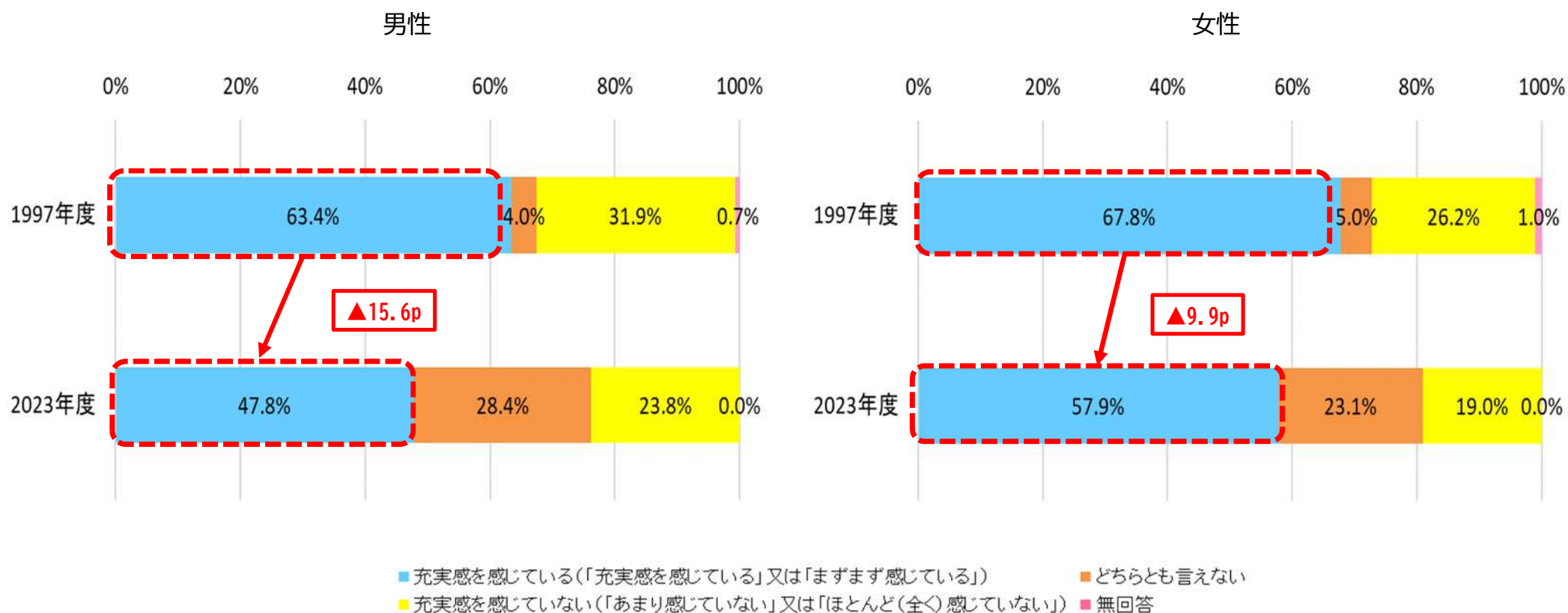
70歳代以上



■ 充実感を感じている（「充実感を感じている」又は「まずまず感じている」）
 ■ 充実感を感じていない（「あまり感じていない」又は「ほとんど（全く）感じていない」）
 ■ どちらとも言えない
 ■ 無回答

Q1 性別（1997年度比）

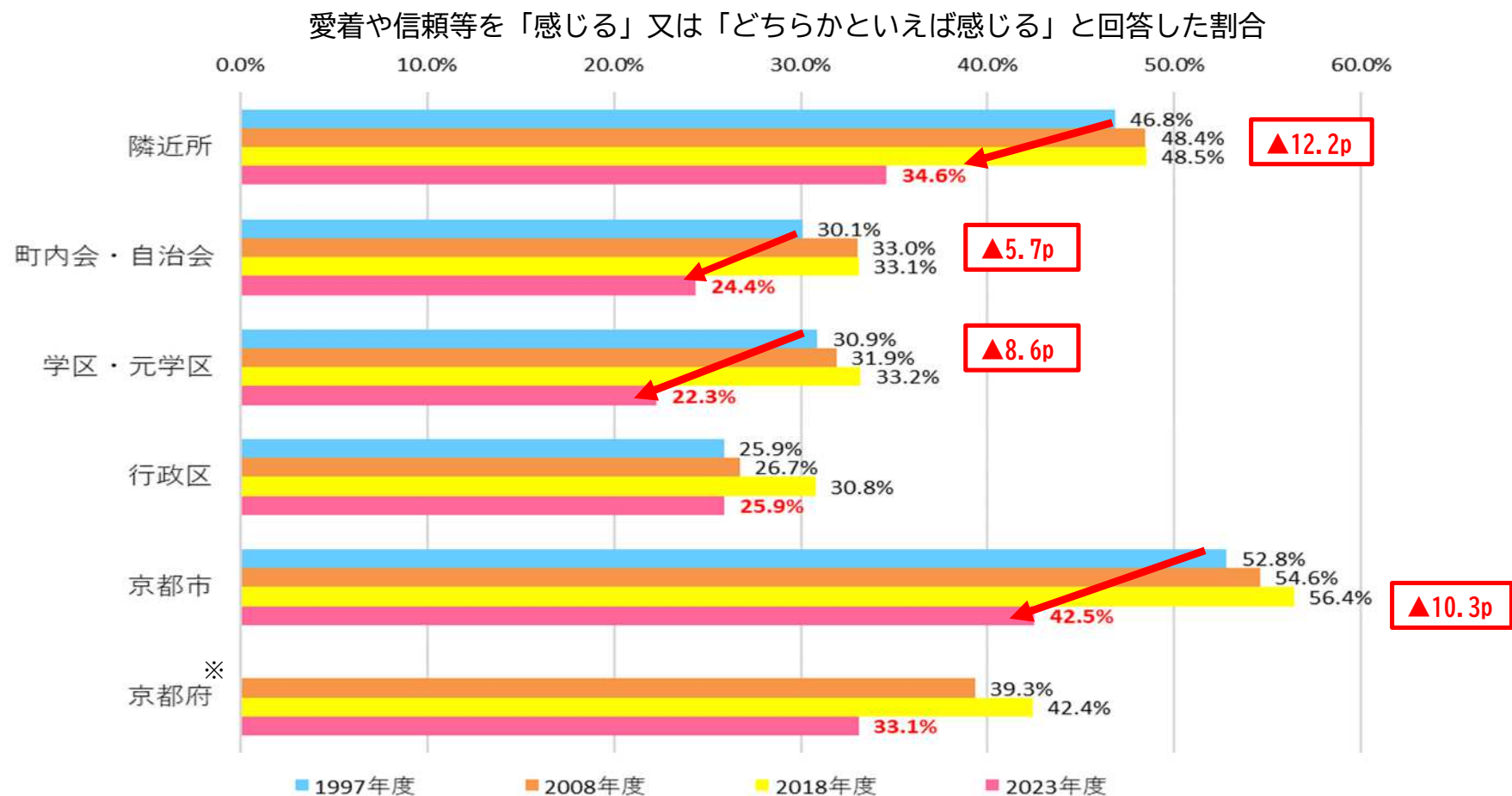
- 充実感を感じていると回答した割合は、男女ともに**低下**



Q2【居住地域に対する愛着や誇り】

あなたは、お住まいの地域について、親しみや愛着、誇りのようなものを感じていますか。

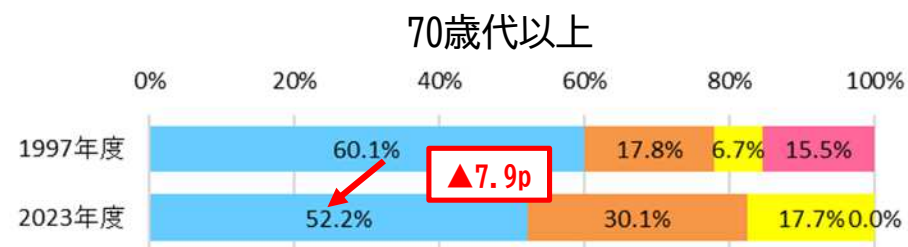
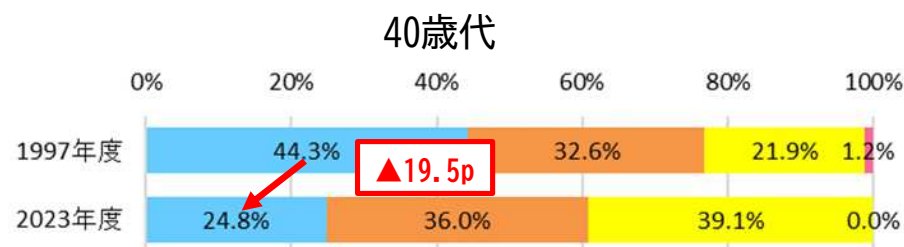
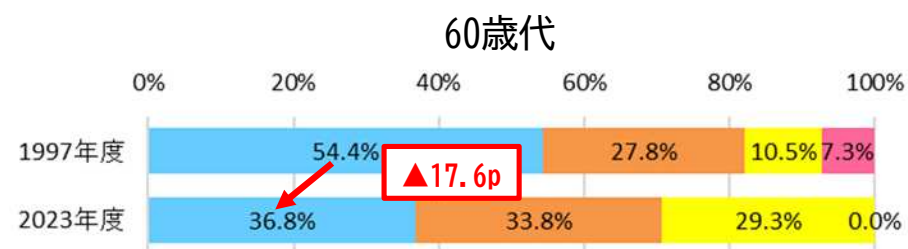
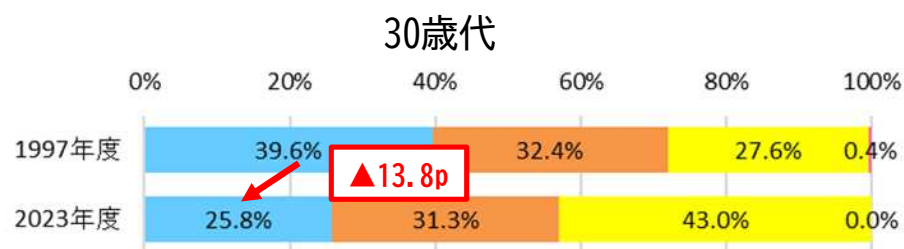
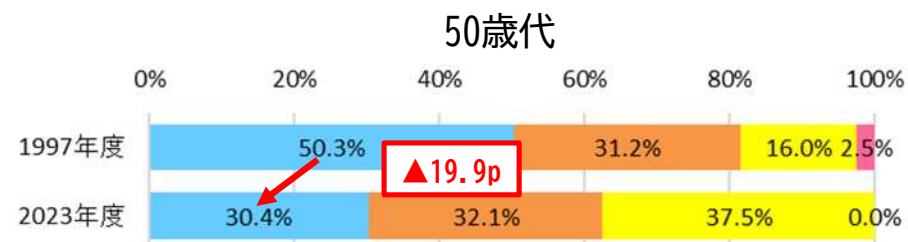
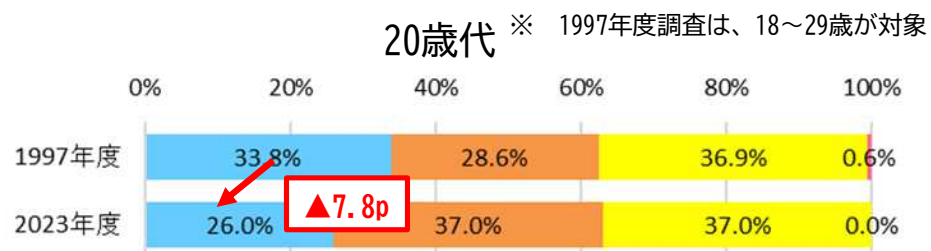
- 「京都市に愛着等を感じる」と回答した割合が全ての調査で最も高い
- 「行政区」を除き、「愛着等を感じる」と回答した割合は**低下**



※ H20(2008)年度から質問を設けたため、それ以前との比較はできない

Q2 「隣近所」・年齢層別（1997年度比）

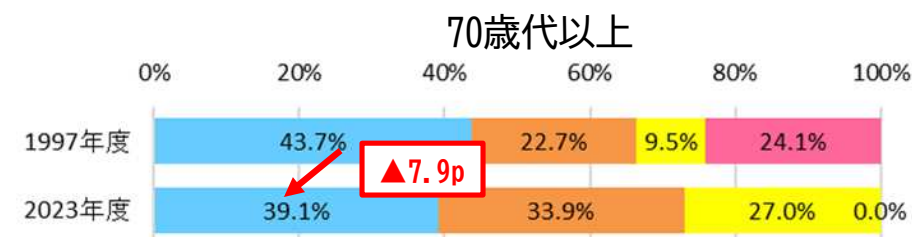
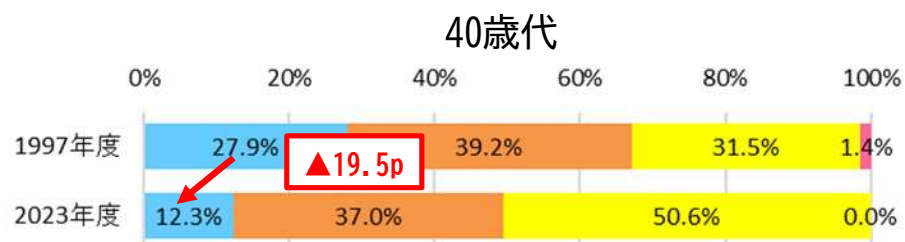
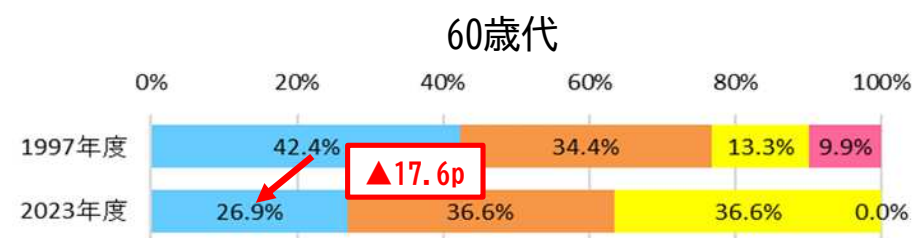
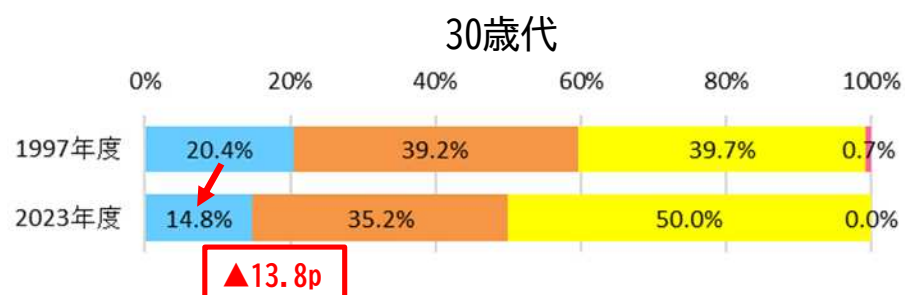
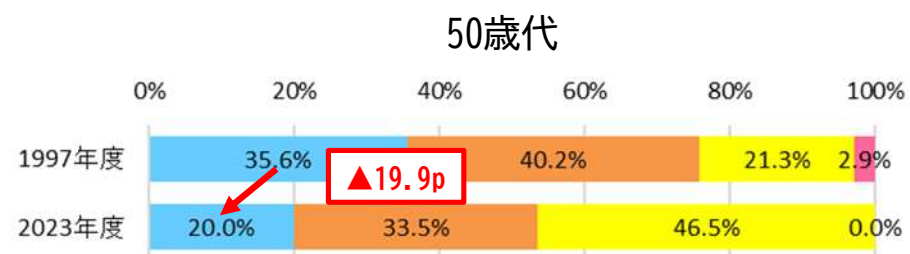
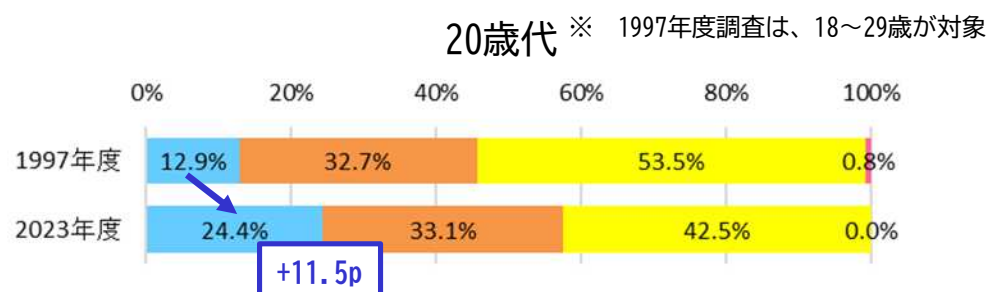
➤ 「愛着等を感じる」と回答した割合は、すべての年齢層で**低下**



■ 感じる(「感じる」又は「どちらかといえば感じる」) ■ どちらとも言えない ■ 感じない(「どちらかといえば感じない」又は「感じない」) ■ 無回答

Q2 「町内会・自治会」・年齢層別（1997年度比）

- 「愛着等を感じる」と回答した割合は、20歳代で**増加**した一方、30歳代以上の年齢層では**低下**



■ 感じる(「感じる」又は「どちらかといえば感じる」) ■ どちらとも言えない ■ 感じない(「どちらかといえば感じない」又は「感じない」) ■ 無回答

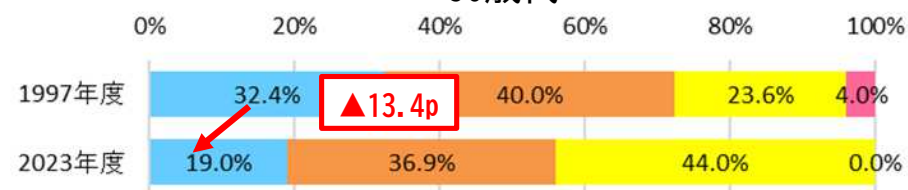
Q2 「学区・元学区」・年齢層別（1997年度比）

➤ 「愛着等を感じる」と回答した割合は、すべての年齢層で**低下**

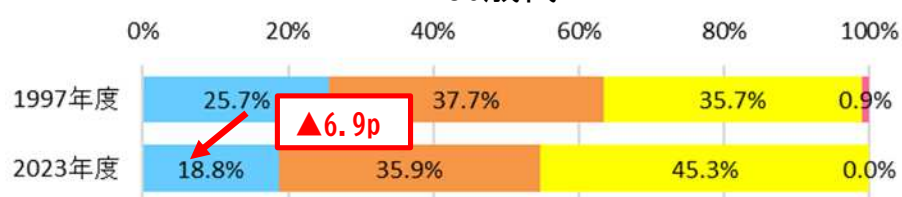
20歳代 ※ 1997年度調査は、18～29歳が対象



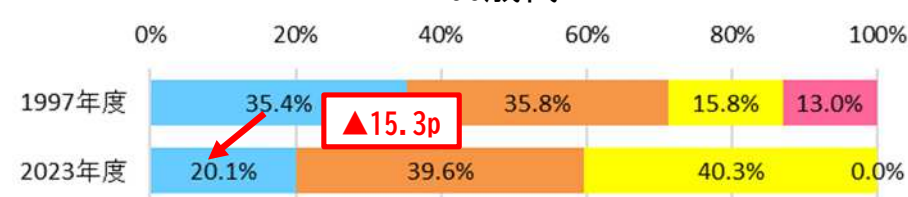
50歳代



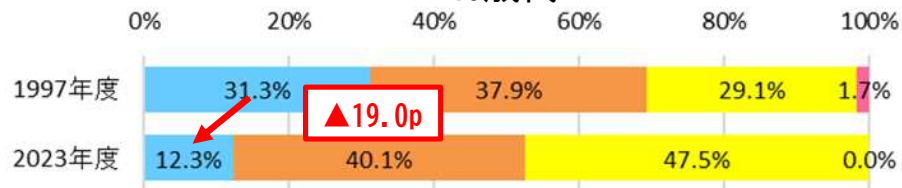
30歳代



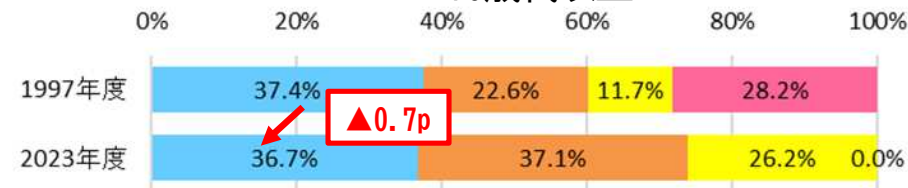
60歳代



40歳代



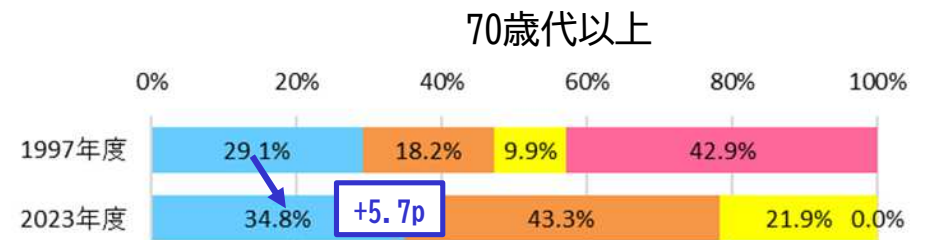
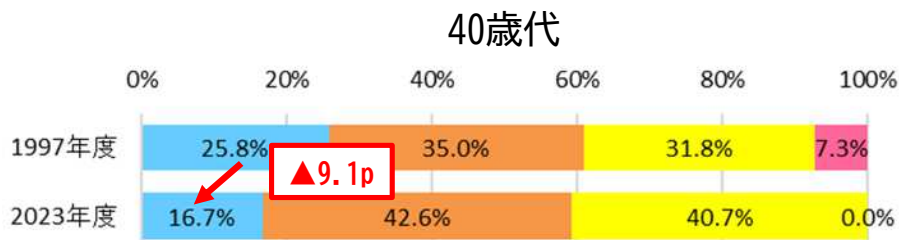
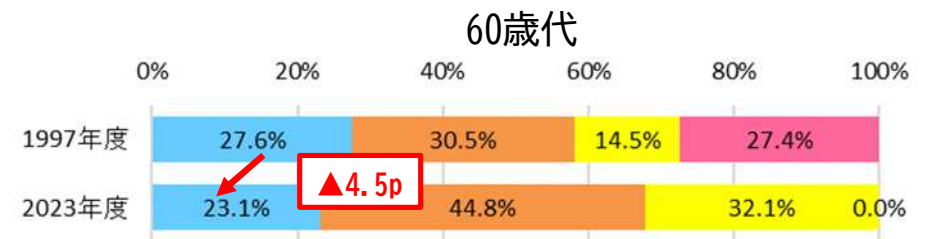
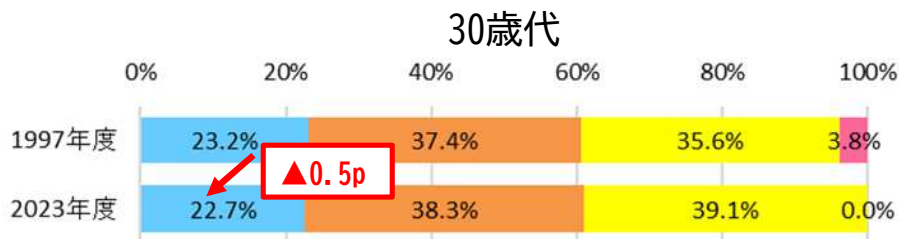
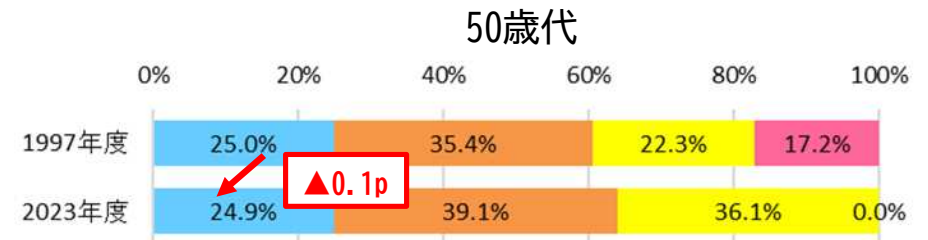
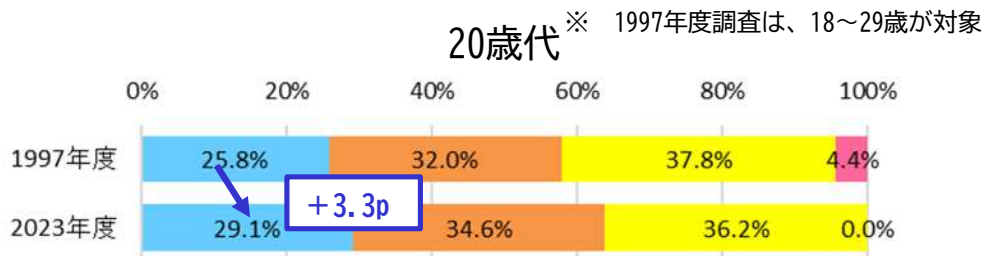
70歳代以上



■ 感じる(「感じる」又は「どちらかといえば感じる」) ■ どちらとも言えない ■ 感じない(「どちらかといえば感じない」又は「感じない」) ■ 無回答

Q2 「行政区」・年齢層別（1997年度比）

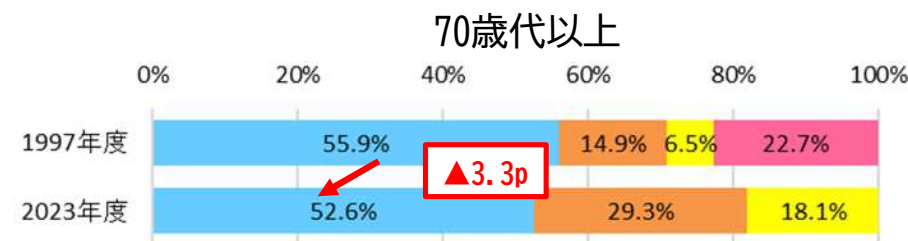
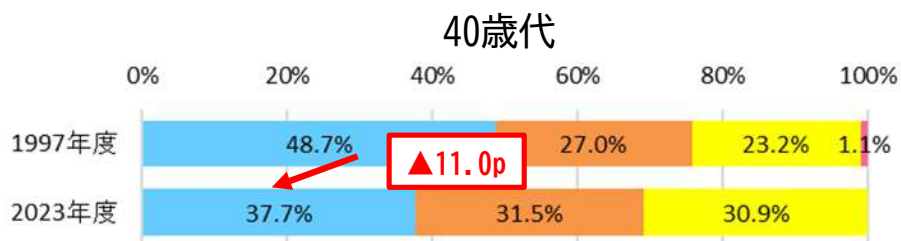
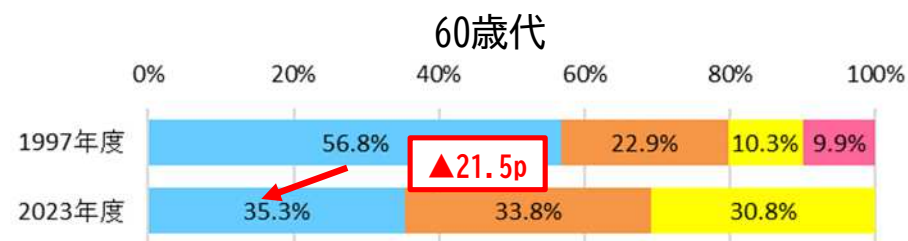
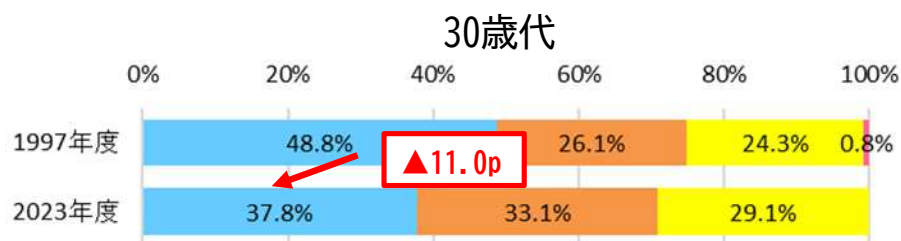
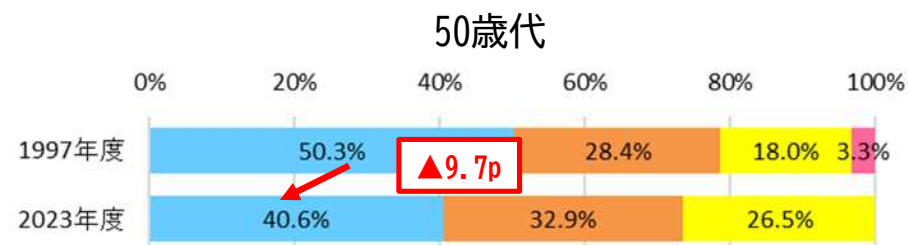
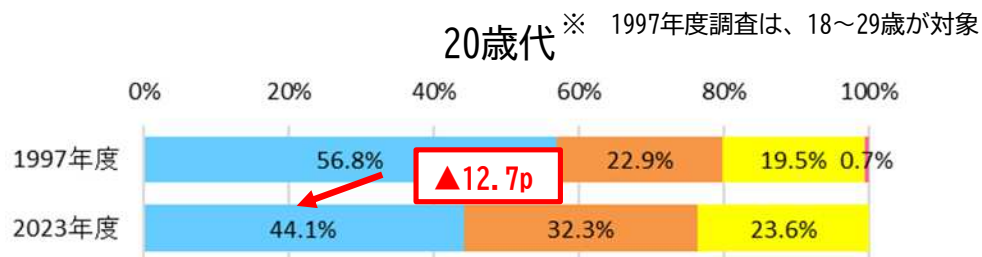
➤ 「愛着等を感じる」と回答した割合は、20歳代及び70歳代以上で**増加**した一方、40歳代及び60歳代は**低下**



■ 感じる(「感じる」又は「どちらかといえば感じる」) ■ どちらとも言えない ■ 感じない(「どちらかといえば感じない」又は「感じない」) ■ 無回答

Q2 「京都市」・年齢層別（1997年比）

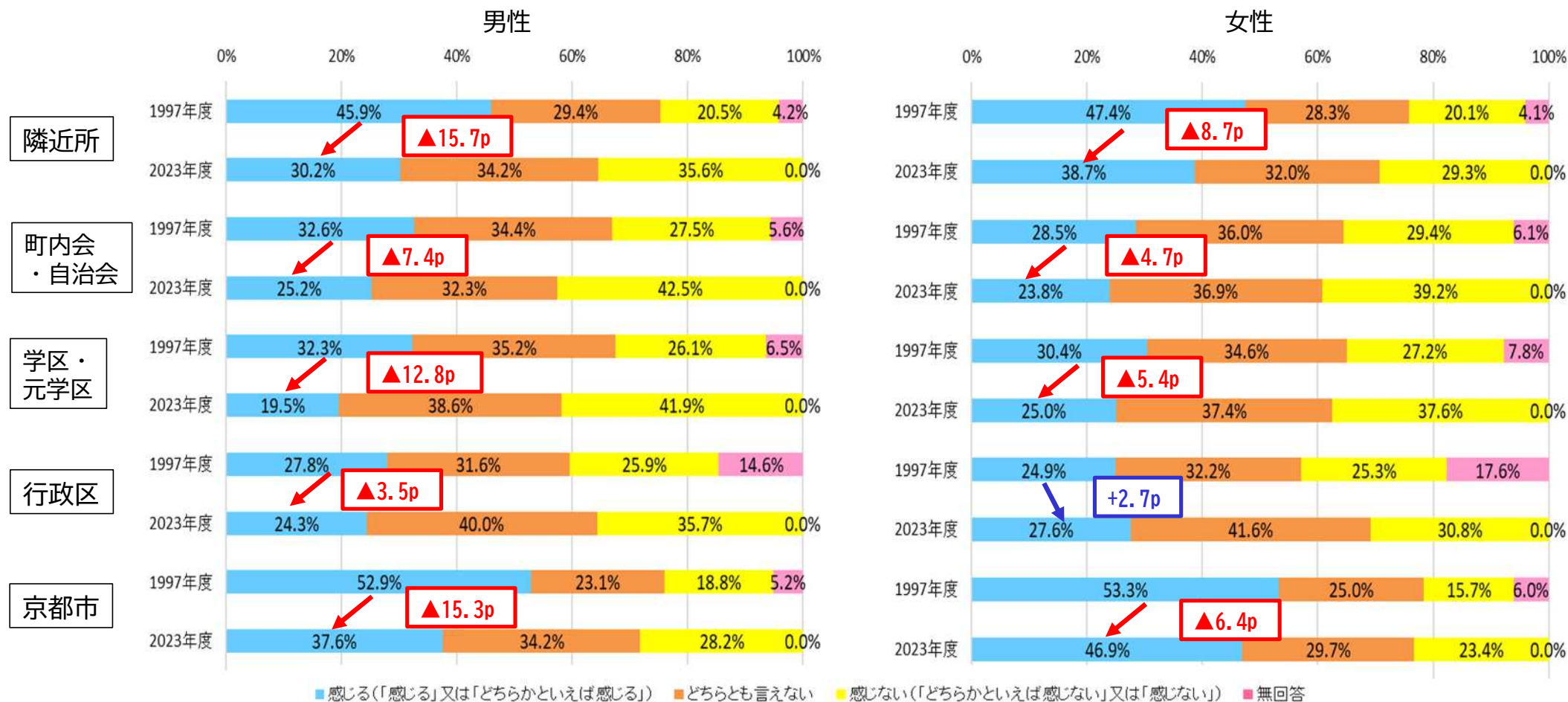
- 1997年度と同じく、すべての年齢層で最も愛着等を感じる居住地域は「京都市」となったものの、「愛着等を感じる」と回答した割合は**低下**



■ 感じる(「感じる」又は「どちらかといえば感じる」) ■ どちらとも言えない ■ 感じない(「どちらかといえば感じない」又は「感じない」) ■ 無回答

Q2 性別（1997年度比）

- 1997年度と同じく、男女ともに最も愛着等を感じる居住地域は「京都市」
- 女性の「行政区」を除き、「愛着等を感じる」と回答した割合は**低下**

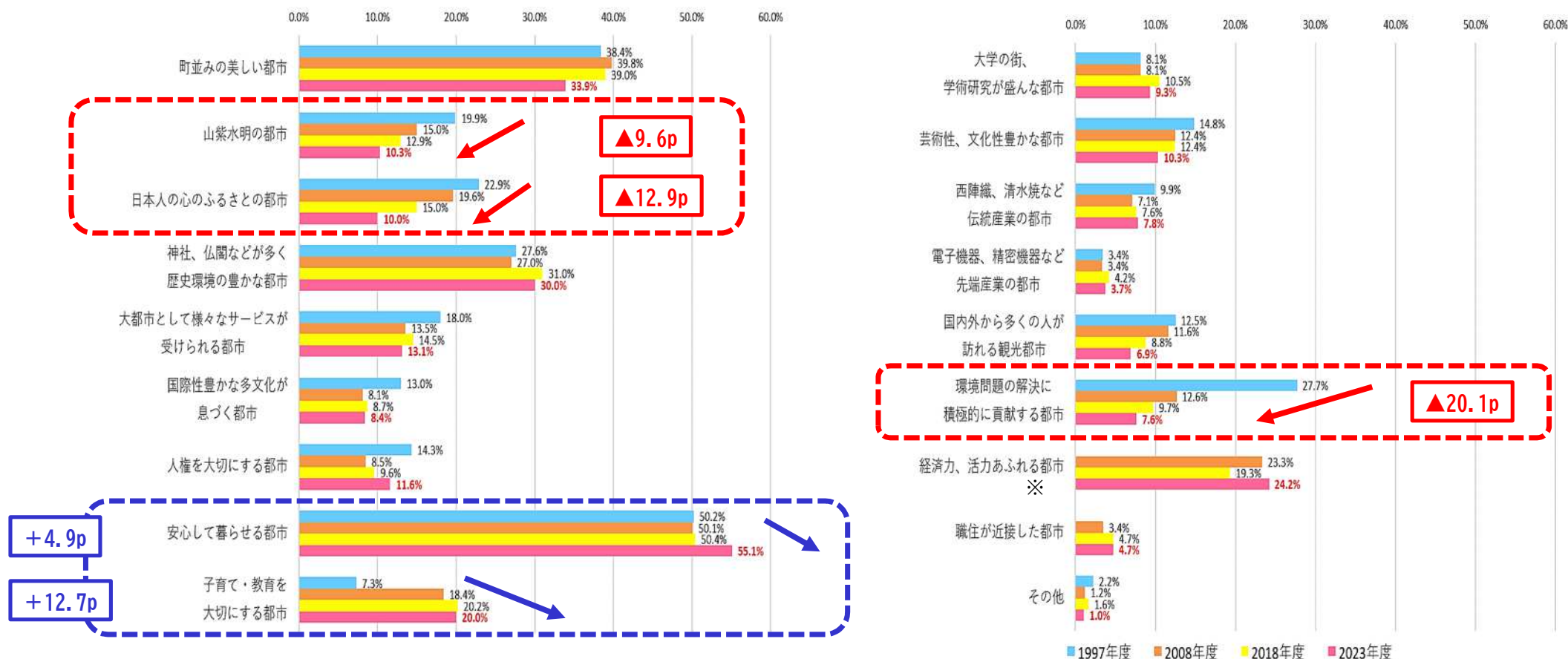


Q3【京都の持つ都市のイメージ（将来）】

「将来の京都」について、あなたが特にこうあって欲しいと思われるイメージはどれですか。

- 「子育て・教育を大切にする都市」や「安心して暮らせる都市」などが**増加**した一方、「環境問題の解決に積極的に貢献する都市」や「日本人の心のふるさと都市」、「山紫水明の都市」などが**低下**

「将来の京都」に特にこうあってほしいと思うイメージ



Q3 年齢層別（1997年度比）

- 「安心して暮らせる都市」（全年代で第1位）や「町並みの美しい都市」を重視する傾向は変わらず
- 若い世代は、「子育て・教育を大切にする都市」が上位に

「将来の京都」に特にこうあってほしいと思うイメージ上位3項目（年齢層別）

1997年度	第1位	第2位	第3位
20歳代	町並みの美しい都市	安心して暮らせる都市	環境問題の解決に積極的に貢献する都市
30歳代	安心して暮らせる都市	町並みの美しい都市	環境問題の解決に積極的に貢献する都市
40歳代	安心して暮らせる都市	町並みの美しい都市	環境問題の解決に積極的に貢献する都市
50歳代	安心して暮らせる都市	町並みの美しい都市	環境問題の解決に積極的に貢献する都市
60歳代	安心して暮らせる都市	町並みの美しい都市	神社、仏閣などが多く歴史環境の豊かな都市
70歳代以上	安心して暮らせる都市	神社、仏閣などが多く歴史環境の豊かな都市	町並みの美しい都市

2023年度	第1位	第2位	第3位
20歳代	安心して暮らせる都市	子育て・教育を大切にする都市	町並みの美しい都市
30歳代	安心して暮らせる都市	町並みの美しい都市	子育て・教育を大切にする都市 経済力、活力あふれる都市※1
40歳代	安心して暮らせる都市	町並みの美しい都市	経済力、活力あふれる都市
50歳代	安心して暮らせる都市	町並みの美しい都市	神社、仏閣などが多く歴史環境の豊かな都市
60歳代	安心して暮らせる都市	町並みの美しい都市 ※2	神社、仏閣などが多く歴史環境の豊かな都市 ※2
70歳代以上	安心して暮らせる都市	町並みの美しい都市	神社、仏閣などが多く歴史環境の豊かな都市

※1 同率で第3位

※2 同率で第2位

Q3 性別（1997年度比）

- 1997年度と同様に、男女ともに「安心して暮らせる都市」が第1位、「町並みの美しい都市」が第2位

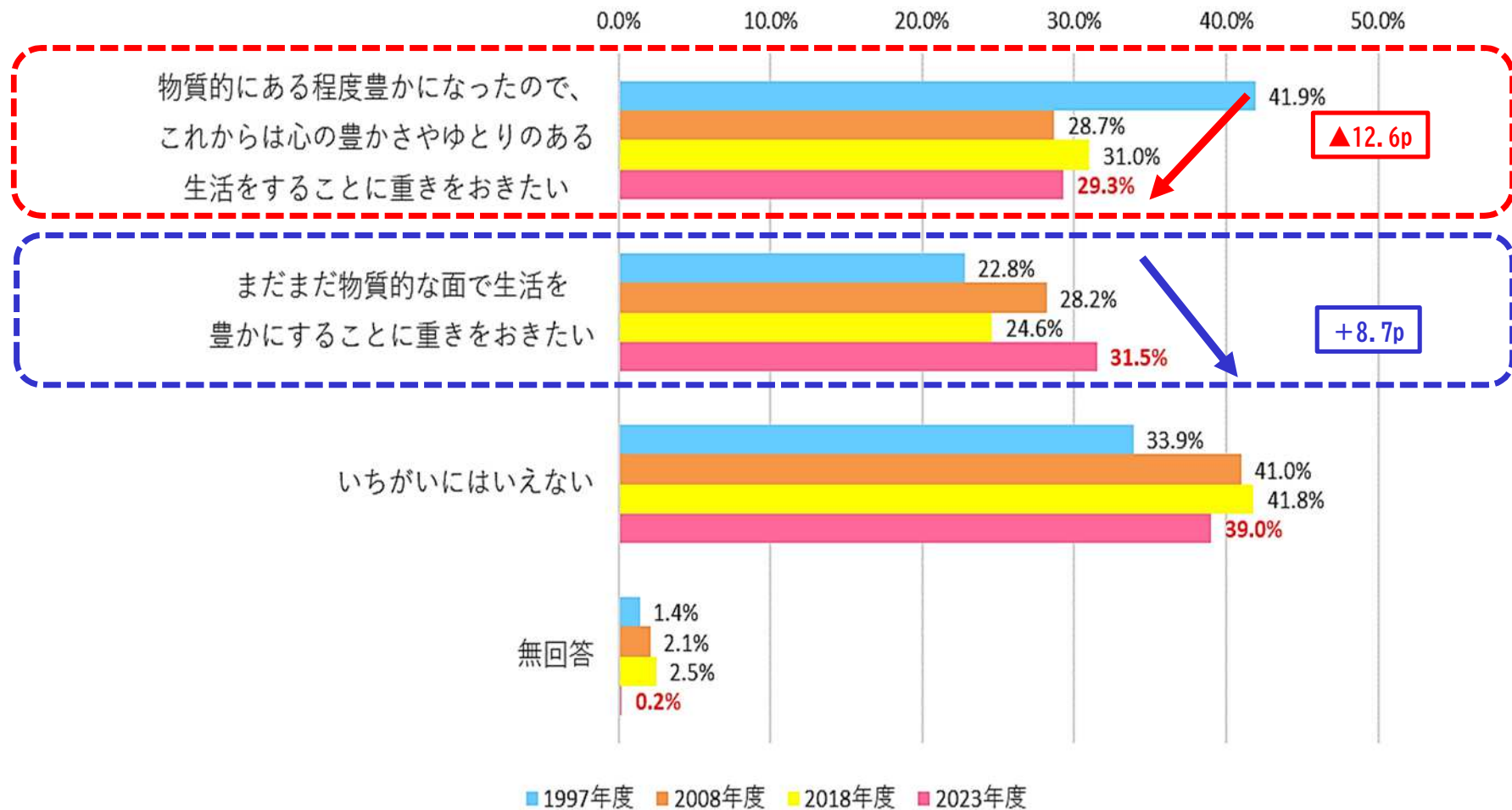
「将来の京都」に特にこうあってほしいと思うイメージ上位3項目（性別）

1997年度	第1位	第2位	第3位		2023年度	第1位	第2位	第3位
男性	安心して 暮らせる都市	町並みの 美しい都市	神社、仏閣 などが多く 歴史環境の 豊かな都市		男性	安心して 暮らせる都市	町並みの 美しい都市	神社、仏閣 などが多く 歴史環境の 豊かな都市
女性	安心して 暮らせる都市	町並みの 美しい都市	環境問題の 解決に積極 的に貢献 する都市		女性	安心して 暮らせる都市	町並みの 美しい都市	神社、仏閣 などが多く 歴史環境の 豊かな都市

Q4【今後の生活の仕方】

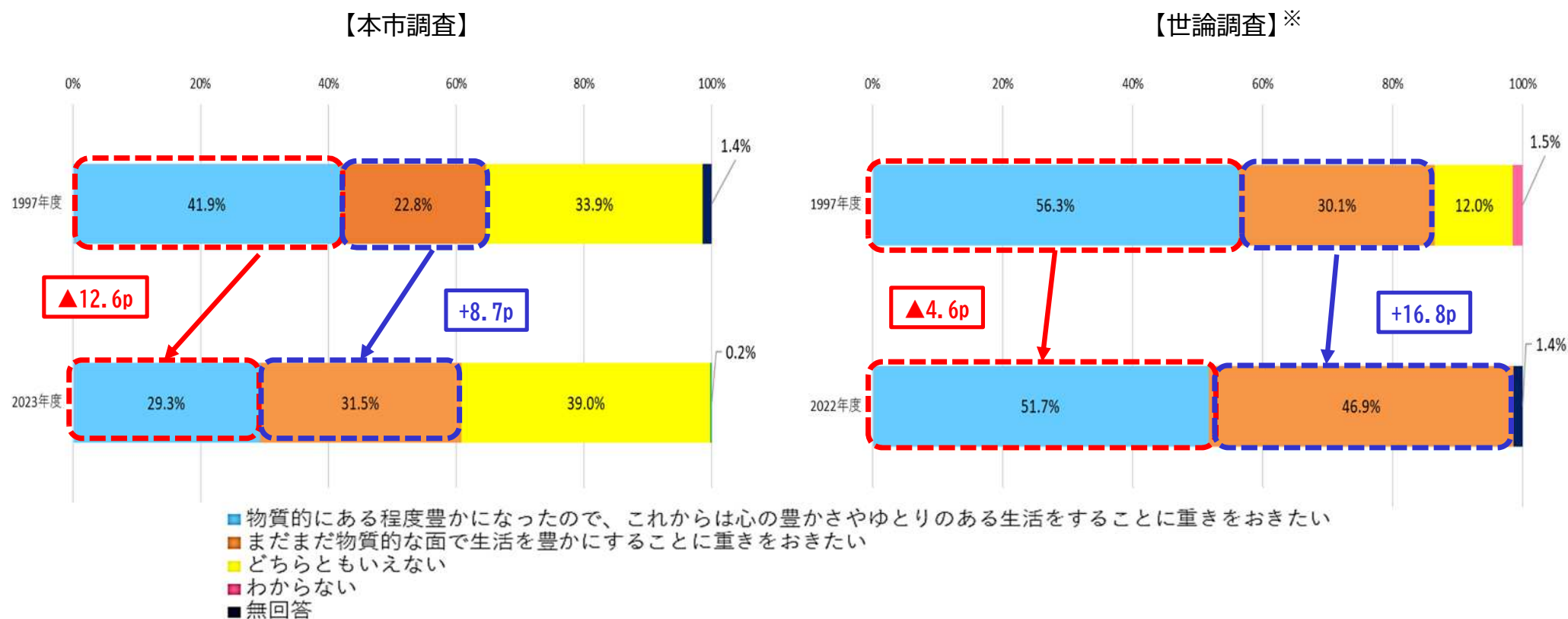
今後の生活の仕方について、あなたはどのようにお考えですか。

- 「まだまだ物質的な面で生活を豊かにすることに重きをおきたい」と回答した割合が**増加**



Q4 世論調査との比較（1997年度比）

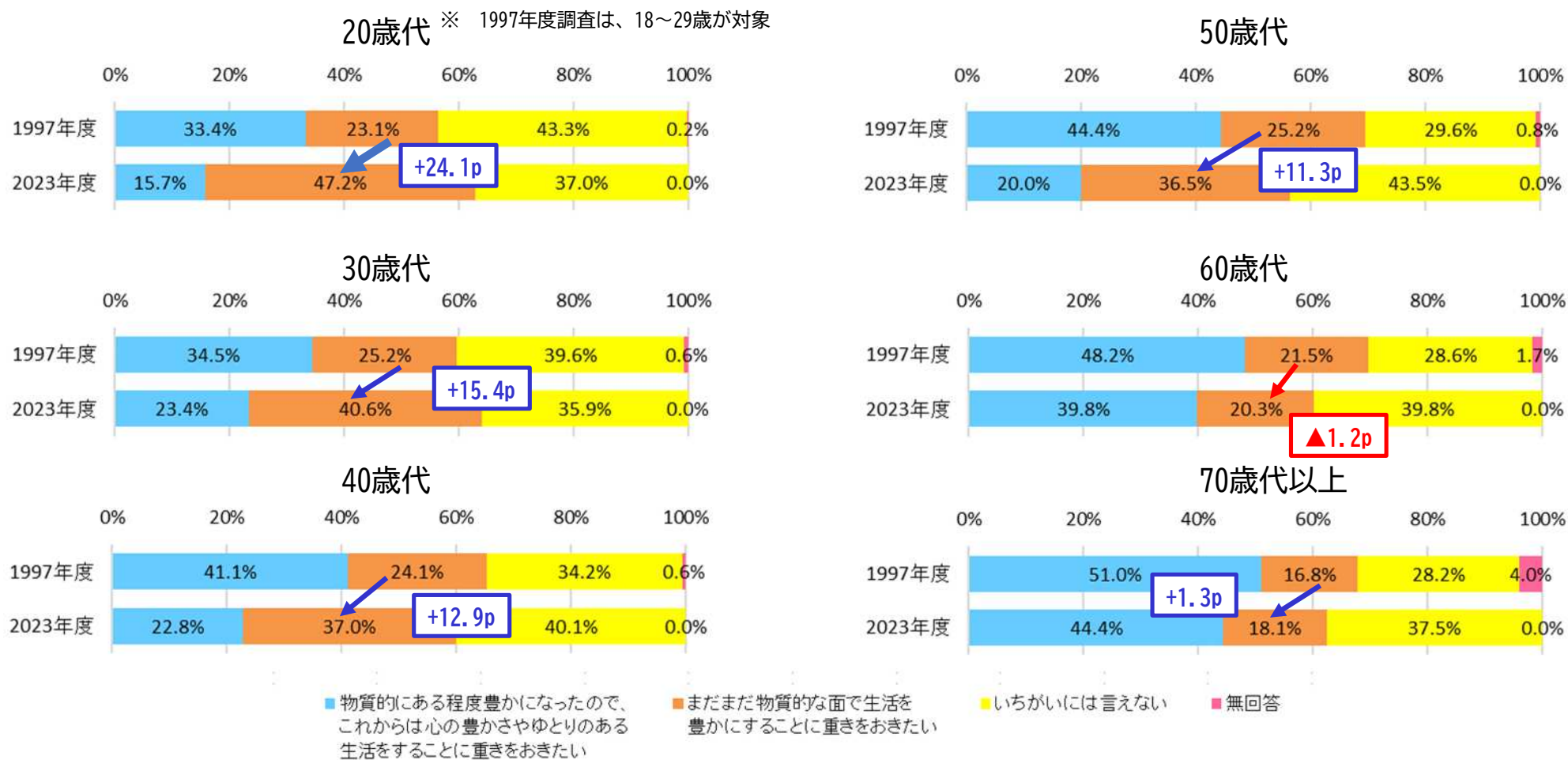
- 本市調査、世論調査ともに、「まだまだ物質的な面で生活を豊かにすることに重きをおきたい」と回答した割合が**増加**



※ 国民生活に関する世論調査（1997年5月調査、2022年10月調査 内閣府）

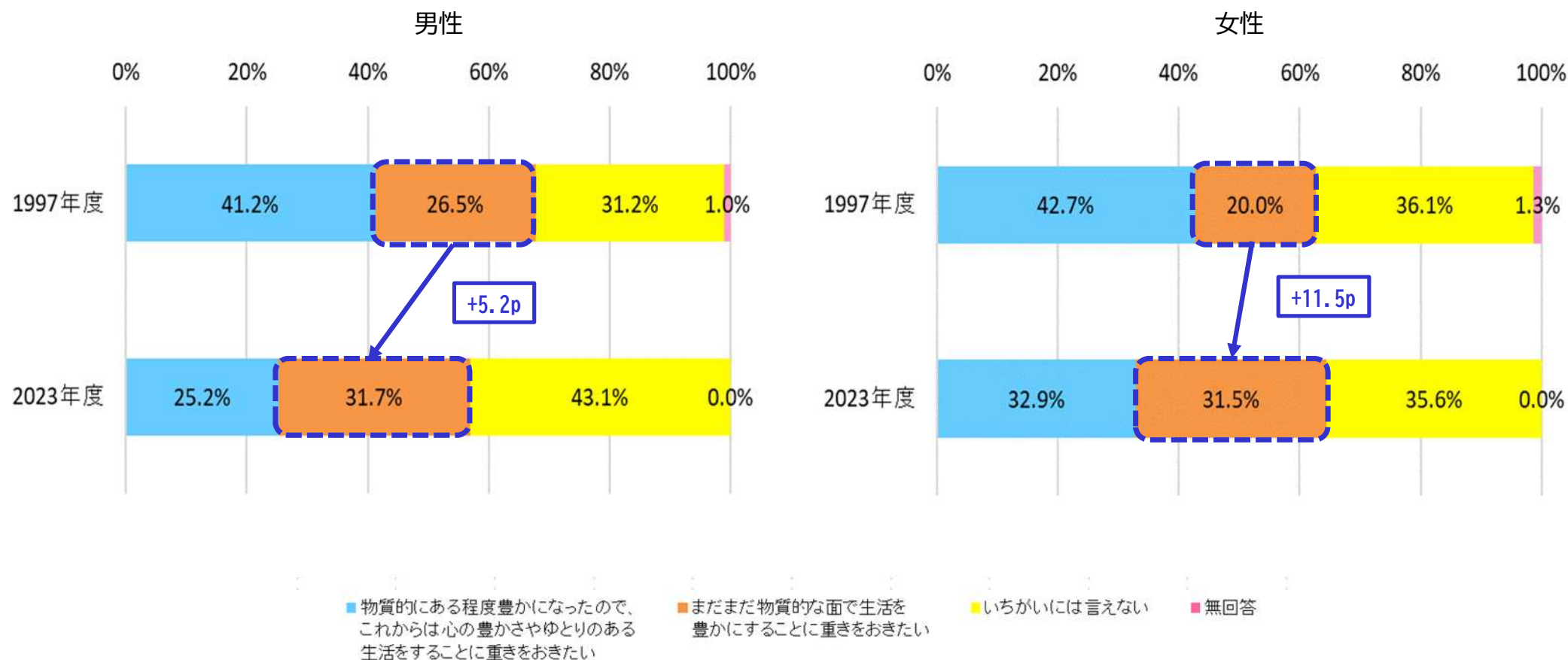
Q4 年齢別（1997年度比）

- 60歳代を除き、「まだまだ物質的な面で生活を豊かにすることに重きをおきたい」と回答した割合が**増加**



Q4 性別（1997年度比）

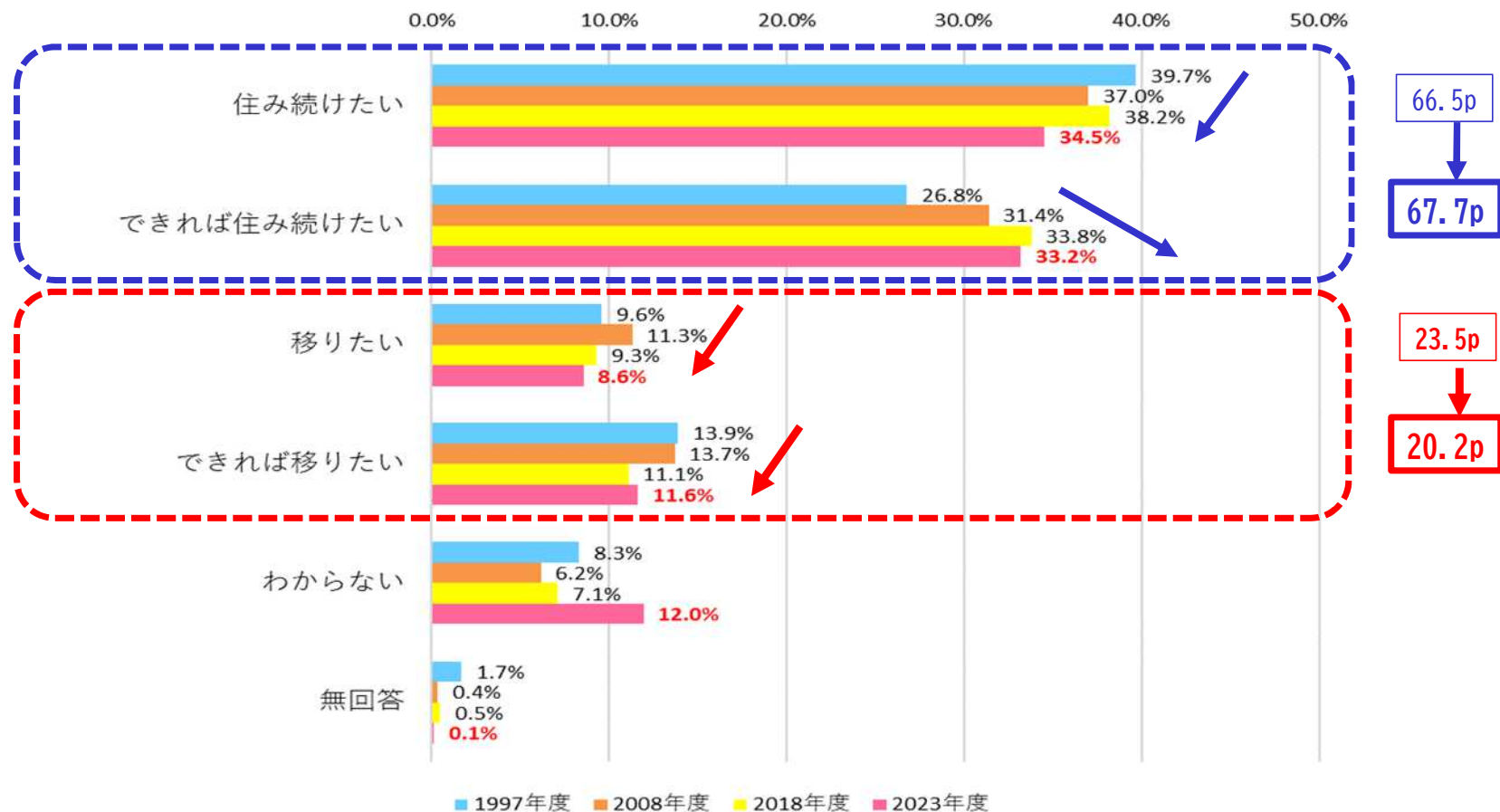
- 男女ともに「まだまだ物質的な面で生活を豊かにすることに重きをおきたい」と回答した割合が**増加**



Q5【定住意向】

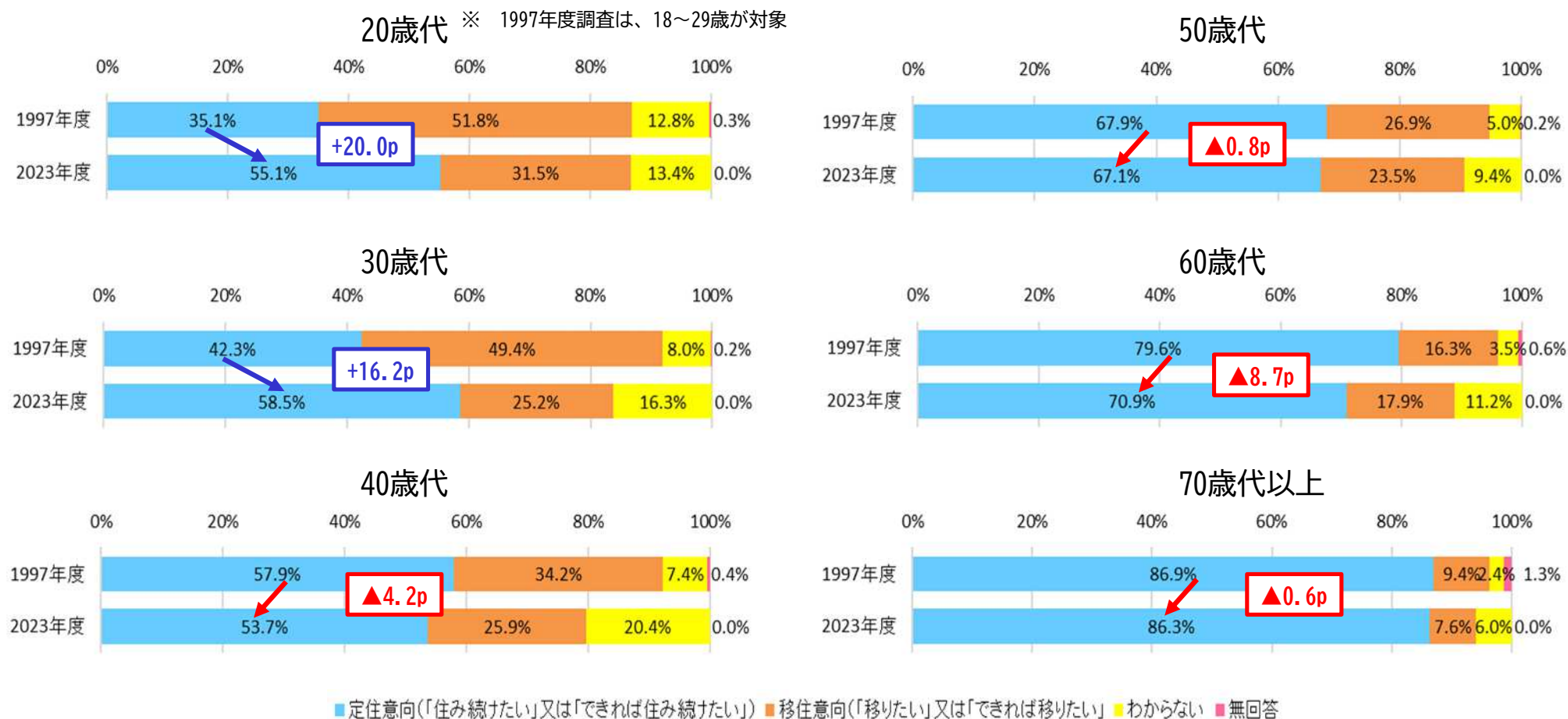
あなたは、今お住まいのところに将来もずっと住み続けたいと思われますか。

- 定住意向（「住み続けたい」又は「できれば住み続けたい」と回答した割合）は増加した一方、移住意向（「移りたい」又は「できれば移りたい」と回答した割合）は低下



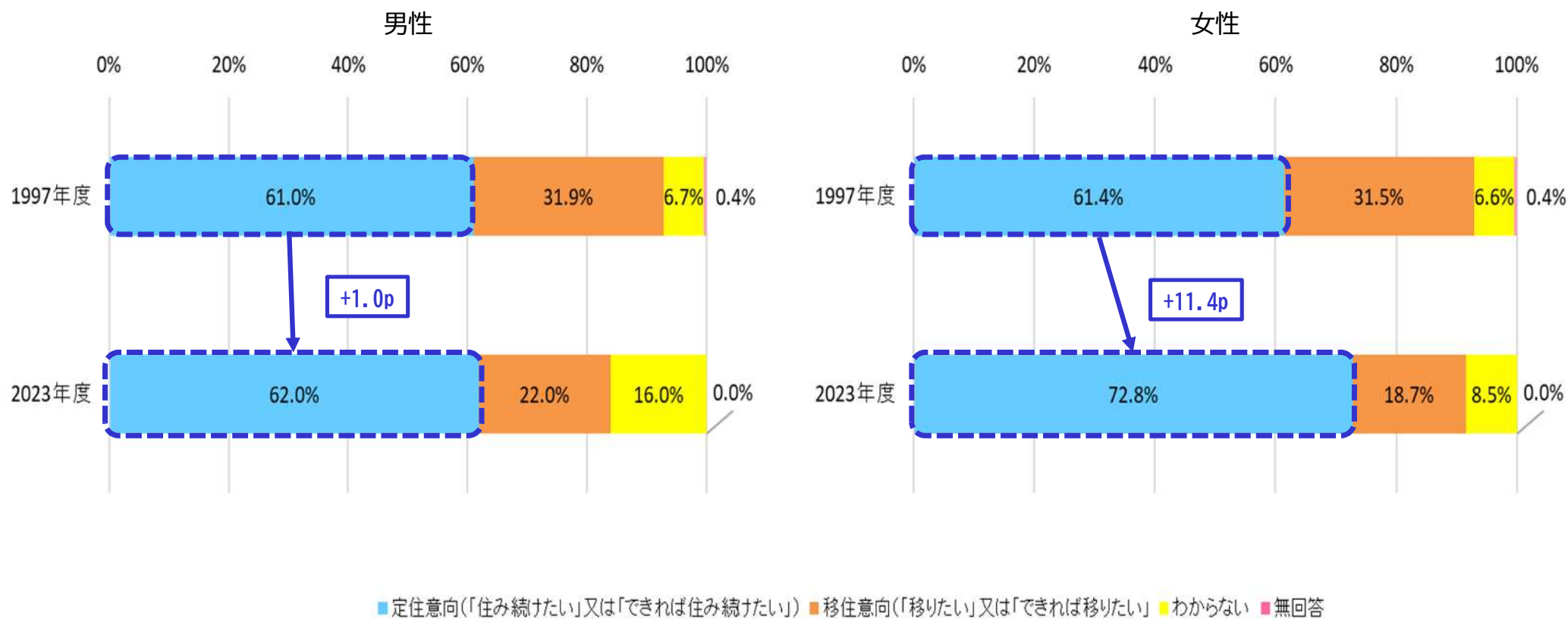
Q5 年齢層別（1997年度比）

- 定住意向は20歳代及び30歳代が大幅に増加し、50歳代、70歳代以上はほぼ横ばいの一方、40歳代及び60歳代は低下



Q 5 性別（1997年度比）

- 定住意向は男女ともに増加
- とりわけ女性の定住意向が大幅に上昇

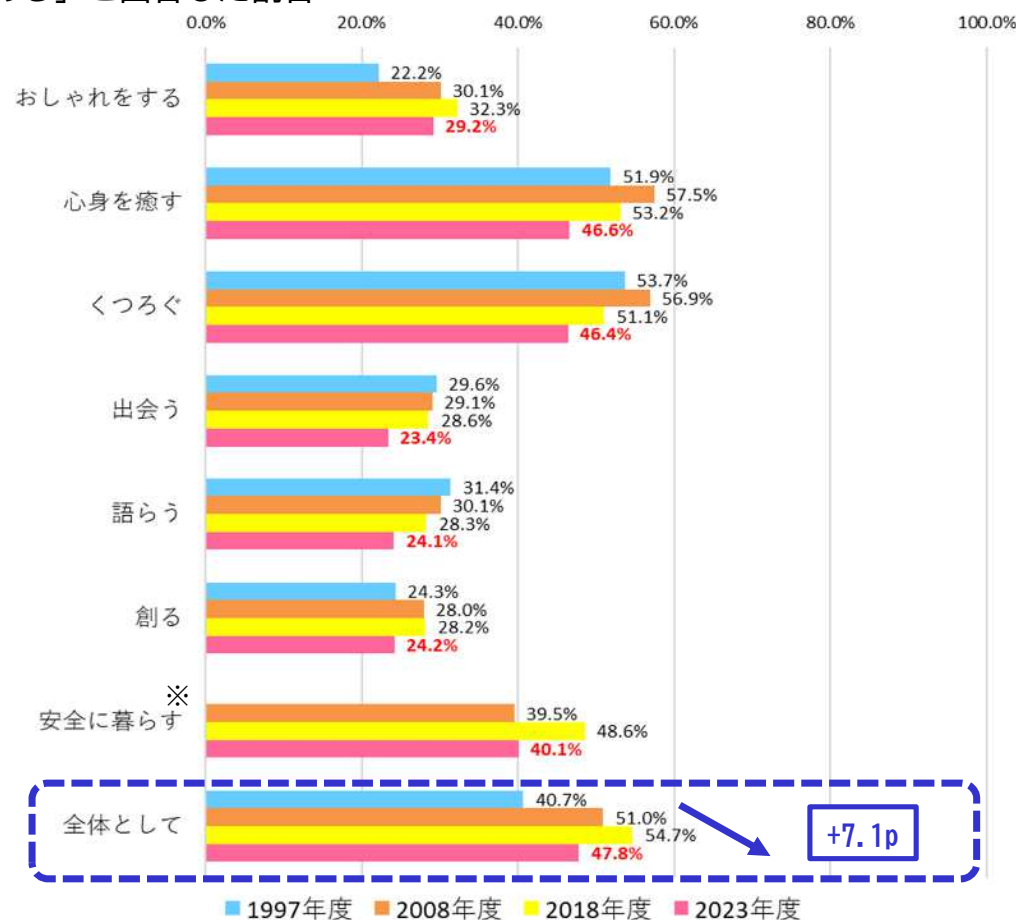
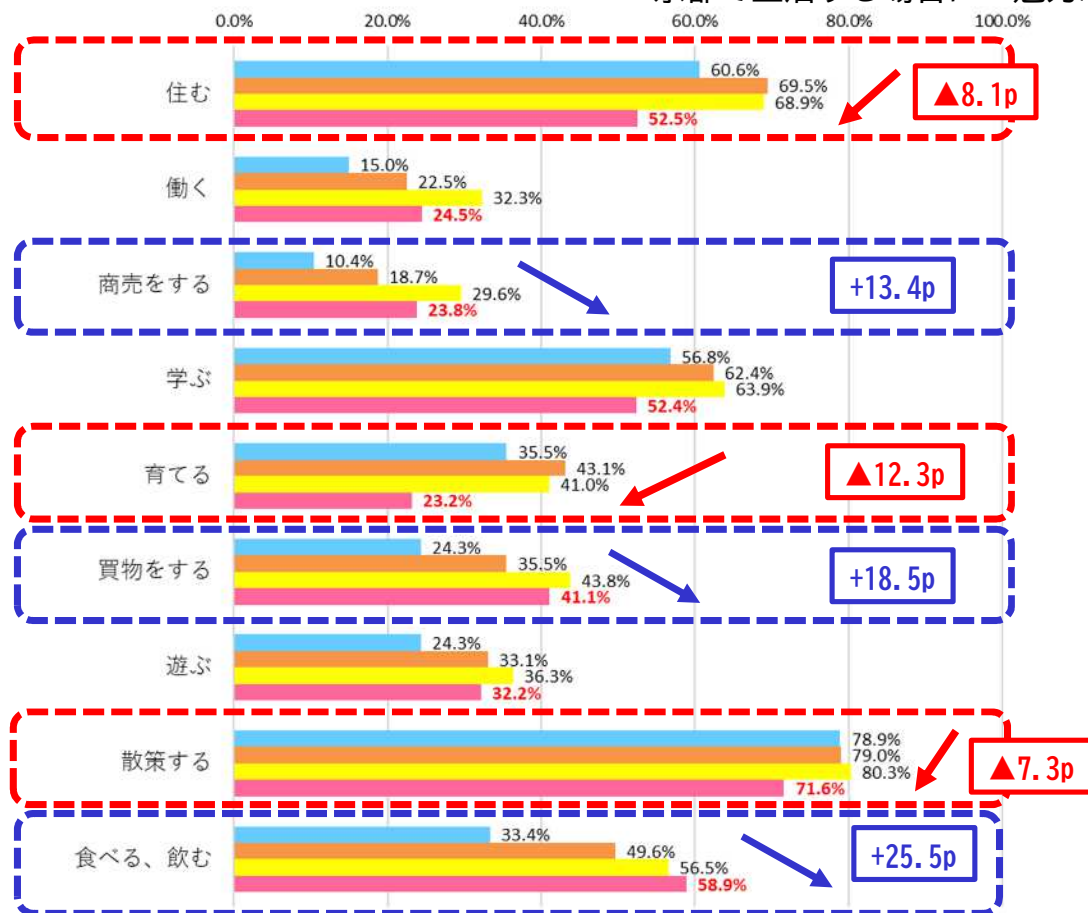


Q6【都市の魅力】

現在の京都で生活する場合、あなたは、京都が魅力あるまちだと思いますか。

- 「食べる、飲む」、「買い物をする」、「商売をする」が大きく**増加**し、「全体として」も**増加**した一方で、「育てる」、「住む」、「散策する」が**低下**

京都で生活する場合に「魅力がある」と回答した割合



※ H20(2008)年度から質問を設けたため、それ以前との比較はできない

Q6 年齢層別（1997年度比）

- 20歳代を除き、「散策する」が第1位
- 20歳代をはじめ、「食べる、飲む」が上位に進出（20歳代は第1位）

都市の魅力上位3項目（年齢層別）

1997年度	第1位	第2位	第3位		2023年度	第1位	第2位	第3位
20歳代	散策する	学ぶ	住む		20歳代	食べる、 飲む	散策する	学ぶ
30歳代	散策する	住む	学ぶ		30歳代	散策する	食べる、 飲む	学ぶ
40歳代	散策する	学ぶ	住む		40歳代	散策する	食べる、 飲む	心身を癒す
50歳代	散策する	住む	くつろぐ		50歳代	散策する	食べる、 飲む	学ぶ
60歳代	散策する	住む	学ぶ		60歳代	散策する	食べる、 飲む	住む
70歳代以上	散策する	住む	学ぶ		70歳代以上	散策する	住む	学ぶ

Q6 性別（1997年度比）

- 1997年度と同様、男女とも「散策する」が第1位
- 男女ともに「食べる、飲む」が第2位に**上昇**

都市の魅力上位3項目（性別）

1997年度	第1位	第2位	第3位		2023年度	第1位	第2位	第3位
男性	散策する	住む	学ぶ	➡	男性	散策する	食べる、 飲む	学ぶ
女性	散策する	住む	学ぶ		女性	散策する	食べる、 飲む	住む